

6 ふるさと能代の植物

1 能代の植物

わたしたちの住む能代では、どんな植物が見られるでしょうか。

ふだんわたしたちが通っている道ばたや公園には、見なれた草花がたくさんさいています。風の松原には、どんな植物があるのでしょうか。東能代の小友沼や浅内の浅内沼では、水辺の植物が見られます。また、常盤などでは山の植物を見ることができます。そして落合浜には、市の花になっているハマナスなどの海岸の植物があります。植物はわたしたちの心をなごませてくれています。

それでは、いろいろな場所の植物を見てみましょう。

2 身のまわりの植物

(1) 家や学校のまわりの植物

自分のまわりを見わたしてみましよう。家から学校までの道ばたには、よく見るとたくさんの草花がさいています。また、公園のしばふや空き地などでも、いろいろな草花を見ることがで

きます。

特に、春から夏にかけて多くの植物が花をさかせますが、よく見かけるものにはどんなものがあるのでしょうか。

みなさんがよく知っているタンポポやシロツメクサは、身のまわりの植物の代表です。そのほかカタバミやハコベやスズメノカタビラ、ヒメジョオン、アブラナなど数えあげるときりがなくらいたくさんあります。

これらの植物は家のまわり、道ばた、そしてちょっとした空き地などでも見ることができます。

身近に生えているものですから、それらを使って遊ぶこともよく行われます。タンポポのわた毛を飛ばしたり、シロツメクサで首かざりを作ったりするのは、みなさんもきっとやったことがあると思います。このように身のまわりの植物は、わたしたちと深いつながりがあります。

注意して見ると、シロツメクサのそばに、形のにた赤い花を見かけることがあります。葉の形はどうでしょうか。シロツメクサの葉とにっていますが、シロツメクサの葉より先がとがっていま



エゾタンポポ



カタバミ



ハコベ

す。これは、アカツメクサとよばれています。シロツメクサは4～7月ごろにかけて、アカツメクサはその後の時期に花を見ることができます。もしかしたら、今まで気づかなかったという人もいるかもしれません。

身のまわりの自然は、なにげなく見ていると見のがすことが多いものです。わたしたちの周りにはすばらしい自然があるのですから、それらに目を向けて自分の目や心で自然を感じてみましょう。

(2) 植物のなかまのふやし方

植物はいろいろな方法で種をまきます。タンポポの種は先にわた毛があり、風に乗って遠くに運ばれます。

鳥が実を食べて、遠くでふんといっしょに出てくる種もあります。10月ころ、風の松原を歩くとズボンなどにたくさんの種がつきます。ヌスビトハギの種は、このようにして動物があちこちに運びます。

(3) 外国からやってきた植物

空き地や草むらを見るとたくさん見かけるヒメジョオンやヘラオオバコ、オオマツヨイグサは日本に昔からあったのでしょうか。

これらの草花は外国から日本に入っ

てきたものです。

能代に生えているタンポポには、外国から入ってきたタンポポ（セイヨウタンポポ）と、昔から日本にあったもの（エゾタンポポなど）があります。

わたしたちがよく見かけるタンポポは、どちらでしょうか。さいているタンポポのほとんどはセイヨウタンポポで、エゾタンポポはずいぶん少なくなってきています。

外国から入ってきた植物が日本の土地に合っているとセイヨウタンポポのようにふえます。そのため、これまで生えていた日本のタンポポが減ってしまいました。

わたしたちが気づかない間に数の減っている生き物がたくさんあります。そして、それらの生き物は、そのままにしておけばこの世からいなくなってしまう。わたしたちにできることには、どんなことがあるのでしょうか。



アカツメクサ



シロツメクサ



ヒメジョオン



アブラナ

3 風の松原の植物

能代市の西側には、日本海にそって約14kmもの砂防林があります。これは、風で運ばれてくる砂から能代の街を守るために、昔の人が主にクロマツを植えたものです。

この砂防林は「風の松原」という名前で親しまれ、散歩、ジョギング、サイクリングなどを楽しめる、みんなのいこいの場所になっています。ここにはどんな植物が見られるのでしょうか。



風の松原の遊歩道



風でかたむいたクロマツ



ツタ



スギ

(1) 木のなかま

風の松原には数え切れないほどのクロマツの木が見られます。この林をよく見てみましょう。海からの風、西風のせいで東の方にかたむいているようすがわかります。

春には、たくさんの花粉が風によって運ばれます。マツは風に花粉を運んでもらって種をつくります。足元に落ちている松ぼっくりを拾って中を調べてみましょう。マツの種が見つかることがあります。

ところで、風の松原の大きな木も、いつかはたおれてしまいます。しかし、木がたおれたあとには日光がさしこみ、子どもの木が育ちやすくなります。

たとえばクロマツの林がとぎれて日光がよく当たる所には、子どものクロマツが育っています。このように、植物たちは親から子へと命を伝えているのです。

風の松原の林は、クロマツのほかに、ニセアカシア、スギ、ガマズミ、ヤシヤブシ、ムラサキシキブなどのたくさんの木でできています。

また、大きな木のみきを見ると、ツタやツタウルシなど、ほかの植物からまりながら上にのびていく植物も見られます。



ガマズミ

(2) 草花のなかま

遊歩道になっている所にはマツがないので、空から光が入ってきます。風の松原には、その光で育っているいろいろな草花が生えています。

遊歩道のわきを注意して観察してみましょう。

まず、オオバコが見られます。オオバコは茎が短く強いので、ほかの草花の生えていない、ふみつけられやすい道ばたでも生きていけます。

ほかにも風の松原の草花は、季節ごとに色とりどりの花をさかせ、わたしたちの目を楽しませてくれます。

オニユリは、大きな美しい花をさかせます。葉のわきにはむかごとよばれる黒い玉がつきます。

チゴユリは、ちご（小さな子）のよ

うにかわいい小さな花をさかせることから名前がつけました。

ツユクサは、2枚の青い花びらと白くて小さい花びらでできた花をさかせます。

カキドオシは、垣根を通りこしてその向こうまでのびていくのでカキドオシという名前がつけました。

ゲンノショウコは、実が開いた形がみこしの屋根ににているのでミコシグサともいいます。

イヌタデは、ままごとの赤飯として遊べるのでアカマンマという名で親しまれています。

これらの植物は、風の松原のいろいろな場所で見られます。みなさんもぜひさがしてみてください。



オオバコ



オニユリ



チゴユリ



ツユクサ



カキドオシ



ゲンノショウコ



イヌタデ



キンミズヒキ

4 沼や湿地の植物

能代市には浅内沼、小友沼などの大きな沼やため池などの小さな沼がたくさんあります。ここにはどんな植物が見られるのでしょうか。

(1) 沼の植物

沼に生える植物は、水の深さによって種類がちがいます。

深い所には、水面に顔を出さないクロモなどの水草や、体全部が水にかかっているうき草があります。



コウホネ



アブラガヤ



クサイ



ヨシ



ガマ

うき草には、ペット屋さんでカメといっしょに売られているホテイアオイという植物が見られることがあります。これは外国からやってきた植物です。

また、ヒシのように沼の底に根をはり、長い茎をのばして葉を水面にうかべている植物もあります。ヒシは夏から秋にかけて白い小さな花をさかせます。実は三角形をつぶしたような形をしていて両はしは針のようにとがっています。

大きな丸い葉はハスです。お盆にこの葉をおそなえの皿として使う所があります。夏にソフトボールくらいのピンクのつぼみをつけ大きな花をさかせます。地下茎はれんこんとよばれ、種とともに食用になります。

沼の浅い所や小川には、葉がとがったハートの形をしたコウホネが見られます。初夏から秋にかけて黄色の花をつけます。

岸边にはアブラガヤやウキヤガラ、フトイ、クサイなどの植物がたくさん見られます。



ヒシ



ハス

小友沼や落合沼には細長い葉で、ススキのような穂をもったヨシがたくさん生えています。

キリタンポのような形をした茶色のガマが見られる所もあります。

(2) 湿地の植物

湿地にもいろいろな植物があります。ノハナシヨウブは7月ごろむらさき色の花をさかせます。



ノハナシヨウブ



ヌマトラノオ



ミソハギ



モウセンゴケ



ゼニゴケ

ひざの高さくらいの草で、茎の先の所に小さい白い花をたくさんつけたヌマトラノオも見ることができます。また、こいピンクの小さい花をつけたミソハギも見られます。

湿地には、他に食虫植物のモウセンゴケやランのなかまのトキシソウがさいている所があります。

山の沢の湿地にはミズバショウやエゾノリュウキンカがさいています。

日のあまり当たらないじめじめした所には、ゼニゴケなどコケのなかまを見ることができます。

沼は長い年月の間に、どろなどがたまってきて少しずつ浅くなっていきます。たとえば、落合沼は昔は深かったのですが、今は浅くなってきたので前まではなかったヨシが一面に生えています。このように沼は自然のままにしておくといつかは湿地になります。

さらに、湿地は長い年月の間にだんだんかわいてきて陸地になります。

そんな沼や湿地ですが、空きカンやゴミがすてられていたり、飛んできたと思われるポリエチレンの袋が目につくのが残念です。沼や湿地の植物を守るにはよごさないことがなにより大切なことです。



ミズバショウ



カキラン



トキシソウ

5 野山の植物

能代は秋田杉で有名ですが、今も人によって植えられた杉林が多く見られます。また、能代市の北には白神山地のように、人の手が加わらない自然の森林が広がっています。

(1) 杉林の植物

杉林の中では草花の姿をあまり見るできません。なぜでしょうか。

理由は、杉は一年中葉をつけていて林の中はいつも日当たりが悪くなっているからです。また、杉の手入れのために草刈りなどが行われることも原因です。だから杉林の環境に合った植物しか生えることができません。ヒメアオキ、ウラシマソウ、クモキリソウなどは杉林の植物といってもよいでしょう。

でも、杉林のいくらか光が入るところには、ミヤマカタバミなどいろいろな植物が生えています。



ウラシマソウ



クモキリソウ



カタクリ



エゾエンゴサク



ヒトリシズカ

(2) 雑木林の植物

丸くて広い葉を持った木が生えている雑木林には、たくさんの植物が生えています。なぜ杉林とはようすがちがうのでしょうか。

それは、雑木林に生えている木の多くが秋になると葉を落とすことと関係があります。雪がとけてから木の葉がしげるまでの間は、林の中が明るいからです。春先の短い間に、雑木林ではたくさんの草花を見ることができます。みなさんのよく知っているフクジュソウをはじめ、カタクリやキクザキイチリンソウなどが美しい花をさかせています。

春本番になると、スマレやムラサキケマンなどが花を



シュンラン



シラネアオイ

さかせます。少し山おくに入ると、エゾエンゴサクやシラネアオイなどを見ることができます。山菜とりで人が山に入るのもこのころです。

雑木林は夏になると木々が葉を広げ、春よりは林の中が暗くなりますが、それでも杉林とくらべると明るく感じます。この明るさを利用して草花は成長を続けますが、暑さのせいでしょうか、夏に花をさかせる草花は少なくなります。

短い夏がすぎ、みんなの夏休みが終わるころには早くも秋の花が見られるようになります。

また秋は花だけでなくいろいろな植物が実を結ぶ季節です。

ミツバアケビ、エビヅルなどの実をさがしたことがありますか。コナラやカシワはどんぐりの実をつけます。

山おくではヤマブドウやサルナシ、ブナの実などがなり、山にすむ動物がきびしい冬をこすための大事な食料となっています。



ミツバアケビの実



ノブドウの実

(3) 野原の植物

昔から野原に生えていた植物は、野原が田畑に変えられたり、ほかから別の植物が入ってきたりして少なくなってきました。特に、オキナグサという植物は、能代周辺からはなくなってしまいました。

それでも、野原には多くの植物が生えています。

春の代表はアズマギクです。夏にはウツボグサが見

られ、しばふのような所にはネジバナが見つかります。秋になるとススキ、アキノキリンソウなどが目につきます。ツリガネニンジンやノハラアザミ、葉になるセンブリが花をさかせるのも秋です。



ネジバナ



ノハラアザミ



ウツボグサ



アズマギク



ツリガネニンジン



センブリ

6 海岸の植物



コウボウムギ



シロヨモギ



浅内浜のようす



ハマエンドウ

昔、能代の海岸は、ほとんどが砂丘^{さきゅう}でした。風が強い日には、砂がふき飛び家がうまったりしました。砂防林をつくったおかげで、能代市の家や畑は砂にうまったりすることがなくなりました。

今、広く砂浜が残っているのは落合浜（海水浴場）付近だけです。あとは港があったり、海岸が波でけずられるのをふせぐテトラポットなどを置いたりして、砂浜がほとんどなくなっています。

(1) 砂浜の植物の工夫^{くふう}

砂浜では夏の暑い日に照らされると砂の温度は50℃以上にもなることがあります。みなさんも砂浜をはだきで歩いたとき、足のうらが熱くなったことがあることでしょう。

砂浜の植物は、このような強い光やかんそうした砂、海水にふくまれる塩分^{ふん}や海からの強い風、そして生えている場所の砂の移動^{いどう}など、きびしい環境の中で生きています。

このようなきびしい環境の中で生きていくために、砂浜に生活する植物はいろいろな工夫をしています。



ハマボウフウとその地下茎



ハマボウフウのように地下に長く根をのばし、深い所の水をすい上げている植物もあります。

ハマヒルガオのように強い風のために砂にうまっても、砂の中に長い茎をのばして、そこから新しい芽を出してふえていく植物もあります。

また、シロヨモギをはじめ、見た目より厚い葉をもっている植物が多く見られます。これは植物自身のからだに、水分をたくわえているからです。

(2) 能代浜の代表的な植物

能代市の花でもあるハマナスも海岸に生きる植物です。子ども館やエナジウムパークにも植えられていますので、みなさんも見たことがあるでしょう。

ハマナスは枝にたくさんのバラのようなどげがありますので、さわるときには注意しましょう。実は赤く、食べることができます。

それから、イソスミレは海岸の砂地にだけ生えます。北海道と日本海沿岸^{えんがん}だけにしか生えていません。能代の海岸のようにたくさん生えているところはほかにはありません。大切に保護^{ほご}したいものです。



ハマナス



ハマヒルガオ



ウンラン



イソスミレ



ハマハタザオ



ハマニガナ